

伊那市環境審議会 会議録要旨

会議名称	伊那市環境審議会
開催日時	令和7年10月3日（金） 10時00分～12時00分
開催場所	伊那市役所 第一委員会室
出席者	委員 10名（欠席2名） 事務局 7名
会議進行等	進行：生活環境課長 1 開会（副会長） 2 あいさつ（会長） 3 協議事項（進行：会長、説明：事務局） (1) 第2次伊那市環境基本計画の進捗状況について (2) 伊那市環境報告書（令和6年度）について (3) 伊那から減らそうCO ₂ !!の計画見直しについて (4) その他 4 その他 5 閉会（副会長）

【要旨】

1 開会

【副会長】

令和7年度第1回伊那市環境審議会を開会する。

2 あいさつ

【会長】

御多忙の中、出席いただき感謝申し上げます。本日は3件の議題が出ている。環境というのは非常に幅が広く、個人の生活の場面から地球全体の場面でと多岐に渡っている。先週は調査の関係で北海道の森林に入っていたが、どこの市町村に挨拶に行ってもゼロカーボン問題をどうすればいいかという相談を受けた。どこの市町村も困っているのが現状なのだ実感した。森林調査で森林内の温度も測っているが、この10年間で平均気温は1

度から2度程度の急激な上昇が確認された。地球環境も非常に切迫した状況になっているのは間違いないと思う。ゼロカーボン日々の生活でCO₂を排出しないようにしようという考え方で推進するものだが、これは以前からずっとやっている事である。ただ、施策を行ってもCO₂をどれくらい削減できたのかが見えにくいためにモチベーションが上がらないのかと思っている。

今日の議題はそういった部分に密接に関係する内容なので、皆様から様々な意見をいただき、個々の環境から伊那市の環境、ひいては地球の環境に寄与できればと考えているので協力をお願いする。

3 協議事項

(1) 第2次伊那市環境基本計画進捗状況について

・事務局より説明（資料No. 1）

【会長】

それでは、まず資料No.1について審議する。第2次伊那市環境基本計画の進捗状況について、質問や意見をいただきたい。

【委員】

「特定外来生物等の除去を行い、生物多様性の保全に努める」の項目の達成状況が△になっている。ヒメジョオンやブッドレアの駆除をしているようだが、外来植物が持ち込まれている原因は登山者の靴に種がくっついているという事がほとんどである。持ち込ませない対策をとることも大事だと思うので検討してほしい。

【事務局】

広報等で周知することを念頭に行っているが、持ち込ませないためには市外の方への周知の強化が必要になるので、各関係機関と連携し周知方法を検討したい。

【委員】

例えば、バスに乗る前に靴底の汚れを落とすとか、林道のアーケードに入る前にタイヤの汚れを落とすような設備を設置すれば大きく改善するのではないかと考える。啓発も大事だが、対応策は他にもあると思うので検討してほしい。

【事務局】

関係機関と検討し、そういった取り組みも行っていきたい。

【会長】

私も樹木や植物生態の調査を行っているが、種によって繁殖の仕方が違う。先程委員が言ったようにくっついて移動して拡大する事もあるが、種が風に乗って広がっていく事もあるし、リスやネズミといった動物が運んで広がっていくこともある。植物の種ごとの特性について大学で専門的に研究している方もいるので、連携して効果的に侵入を防いでいくことが肝要だと思う。有識者から意見聴取しどのような対処方法や拡大防止措置が必要なのかを検討し、実効性のある対応ができるよう検討していただきたい。

【委員】

不法投棄について、最近は不法投棄が少なくなっているが、昭和の頃に山の中に勝手にごみを捨てていた時代があったのか、今土地開発として山を更地にしようとしたところ、中から不法投棄のごみが沢山掘り起こされたという話を市民の方から聞いた。私有地であれば所有者が対応しなくてはならないのだが、所有者からすれば勝手に捨てられていたごみの対応をとるといのはどうなのかという思いが出てくると思う。そういった環境の改善として条例等で何かしらの対策を講じることはできないか。

【会長】

誰がやったのかを特定するのは難しいし、法規制等についてはこの会から意見具申はできるかもしれないが、実際は議会に対応いただく形になる。

【事務局】

現状は、市内各所で不法投棄があるという連絡をいただいている。各地区の衛生役員から不法投棄の連絡をもらった場合は、当該地の道の際まで運んでもらい、それを市が回収している。個人の方から連絡があった場合も同様の対応である。委員の言うとおりの何かしらの対策を考えていく必要がある。

【会長】

出てくる量にもよるし難しい問題だと思う。誰がいつ何のために投棄したのか特定することもできない。それこそ議会で考えていただきたいので、委員から意見があったことを示してもらえればと思う。

【副会長】

評価欄における○や◎等の評価についてはどのように判断しているのか。具体的に評価するにあたって具体的な数字目標を基準にしているのか。また、取組内容については○だが結果については把握しているか。例えば3010運動においては、広報誌やホームページにて周知したことで取組評価は○になっているが、実態として食べ物の廃棄が減ってい

るかと言えば、あまり変わっていない印象もある。結果まで含めた評価の仕組み作りも必要と感じたのだが。

【会長】

◎と○に違いがあるのかという事だと思う。今はこういった計画を作るときは目標値等の具体的記述を示すことを義務づけられており、作る側は非常に苦勞するがK P Iということだと思う。中には定性的には評価できない項目もあると思うが、どのように判断しているのか説明してほしい。

【事務局】

行政の取組についての評価になるため、十分に取組んだということであれば◎といった評価内容になる。現状は結果まで含めた評価にはなっていないし、具体的な数値を基準にして評価していない。

【会長】

私もどのように評価しているのか気になっていた。通信簿でいう1から5の評価に似ているが、以前は大学でも同じようなことをしていた。全てが◎になるようなことはないし、◎が多いことよりも基本的に達成できた項目がどれだけあるのかということが重要で、△や×については何が足りなかったのか、足りなかった理由は何かというのを洗い出すことに意味がある。計画というのは毎年やりながら計画の問題点や実行方法の問題点を浮き彫りにして次の計画立案に結び付けることが大事だ。◎のパーセンテージだけを見るのではなく、何が理由で上手くいったのかという点を捉えてほしい。そういう審議を行って計画がより実効性のあるものにバージョンアップしていくための評価であることに重点をおいて評価方法を検討してほしい。

【委員】

多様な生態系の維持という事だが、北沢峠周辺に観察研修で行った際、シカの食害によって貴重な山野草や高山植物が食い荒らされて谷が丸裸になっている場所があった。網で保護されている部分は無事だったが食害の進行が早く、希少種の保護や生態系を維持するためにはかなり踏み込んだ取り組みが必要だと思う。クマの出現についても全国的に話題になっている。その都度注意喚起の広報が出ているが、抜本的に頭数を削減することも含めて森林環境を考えていかななくてはならないと思う。

森林環境の保全について、松枯れが大分進行している。学校にもいつ倒れてしまうのかわからない木があり、急に倒れて何かあったらという心配もあるが、切っていただくまで

に時間がかかる。50年の森林推進課でも対策を考えてくれているが、迅速に対応していただけるとありがたい。

ごみの資源化やリサイクルの推進については、リチウムイオン電池の回収について、伊那市がどのように対応しているかわからない部分がある。火災が起こる心配もあるため、小型家電回収ボックスと合わせて早急に取り組まなければならないと感じている。

【事務局】

南アルプスの現状については委員が述べられたとおりで、環境省や林野庁と連携し、少ない部分ではあるが馬の背ヒュッテの回りに網を張り信州大学農学部先生に見てもらっている。花までとは言わないが緑の葉は戻ってきている状況ではある。シカについては毎年猟友会が1,000頭から1,500頭を駆除している状況だ。本当はもっと多く駆除したいところだが、人員やお金の問題があり拡大して手を打つことができないため、継続してやっていきたい。クマについては、市長の方針もあり人命第一として、長野県で真っ先にゾーニングし、人里にクマが現れたら駆除の対象としている。ただ、共存も大事なことで、出来るだけ人里に下りてこないように、山の整備や緩衝帯の整備を行っている。松枯れについては、確かに対応は後手になっている。樹種転換が一番良いのだが、お金がかかることや地主の理解を得る必要がありスピードが上がらないが予算の範囲で取り組んでいるところなのでご了承いただきたい。リチウムイオン電池の回収については課題だと思っている。現在は小型家電回収ボックスの他に年2回の環境美化活動においてリチウムイオン電池を含めて乾電池を回収している。加えて、市役所窓口を持ち込んでもらえれば窓口にて回収している。ただ、不燃ごみへの混入は、委員から話のあった通り全国的な課題になっており伊那市においても課題であると認識している。上伊那で構成される上伊那広域連合でごみ処理施設を運営しているが、担当者会議において現在協議しており、現状の取組の他に家庭から排出しやすい仕組みについて検討を進めているところである。

【会長】

どれも大変重要な問題だ。仙丈ヶ岳は県境を挟んでいることや環境省と林野庁で管轄が違うので連携が取りにくい。中部森林管理局と仕事をすることがあるが、彼らは非常に問題意識をもっており予算の範囲ではあるが積極的に取り組んでいる。また仙丈ヶ岳は国立公園第一種のため一番手をつけにくいということもある。難しい面もあるが、関係各所で連携してやっていく必要があると思う。その上で伊那市が中心的な存在として主張してほしい。松枯れについては、私も専門でやっているのでも様々な委員会に呼ばれているが、国で全国的な対策をとるマニュアルが出ているが、その内容も5、6年でだいぶ変わ

っている。以前は枯れたら切りましょうという方針だったがそれでは間に合わず收拾がつかないため、守るべき松林があるとするならばそれに接する松林は枯れている枯れていないにかかわらず先行して切っていかなければと止められない、という方向性になってきており協議している。特に、枯れてから木を切ると虫が入っているために移動が難しくなるし、金にならない。それならむしろ枯れてる木数本でできたのならそこに生きている元気な木もまとめて切って売れるものは木材資源として有効に使っていく方向にシフトしているのでその辺も調べて検討してもらいたい。リチウムイオン電池については、電池を自分で入れ替える製品ならリチウムイオン電池であるとわかるが内蔵型の製品は分かりにくい。リチウムイオン電池内蔵型の製品についてはもっと明確にリチウムイオン電池が入っていることを特記し、危険であることをわかるようにしてもらいたい。ただ、当面はこれまで作られてきた製品で分かりにくい状態での廃棄が前提になるので逼迫した状態でやるしかない。良い手が打てればと考えているが今後も検討が必要だ。

【委員】

入笠牧場はJ A上伊那が90年近く管理していたが、昨年度に放牧が終了し来年度には伊那市に返還することになっている。私は入笠牧場に行く機会が多いのだが、今はシカ牧場のようになっていて、50頭近くのシカがいるような状況になっている。この状況については食害という面も含めて関係部門に対策をお願いしたい。

【会長】

入笠牧場は人が持ち込んだ牧草を使っていたのか。

【委員】

おそらくはそこに生える自然牧草だと思う。

【会長】

北海道あたりでは栄養価の高い牧草を使っている。もし入笠牧場でもそういった牧草を使っていて、そこにシカが入ってきてその牧草を食べるとなると繁殖率が激増するという問題が出てくるが、そうではないならば比較的扱いやすい状況ではある。草原植生から森林を増やして暗くし草本植物を減らすのも対策の一つである。動物生態の専門家等と情報交換しながら進めると良い。

【委員】

仙丈ヶ岳のシカの食害について話が出てきたが、天竜川の東側にいたシカが西側に移動している事も気になる。将来、中央アルプスが仙丈ヶ岳と同じような状況になってしまう

危険性があるのか、どうやって防げばいいのかを会長に伺いたいし、市としての考えも伺いたい。

【事務局】

市としては西も東も同じような対応をとっている。少し前までは西側は大丈夫だろうという意見もあったが今は全くそんなことはないので、猟友会に依頼し駆除している。

【会長】

侵入を阻止することはほぼ不可能である。川や沢を渡るところに網を張ることはできずそこから侵入されてしまうと、電気柵は人体への影響が大きく危ないため、決定的な手段はない。国で全国的にシカの動向をモニタリングしているが、かつてシカがいなかったと言われていたエリアにもどんどん侵入している状況なので、すでに狩猟に動いている伊那市の対応は現実的で、獣害駆除を進めることが現状の最良だと思う。

(2)伊那市環境報告書（令和6年度）について

・事務局より説明（資料No.2）

【会長】

資料No.2について審議する。伊那市環境報告書（令和6年度）について、質問や意見をいただきたい。

【委員】

3点質問がある。まず、自然環境の保全のアレチウリ駆除について、毎年6月と11月に市内一斉で駆除を行っているが、6月はアレチウリがあまり成長しておらず、把握も難しく駆除ができないので、成長が確認できる時期に変えてみてはどうか。2点目は、生活環境の保全の公害苦情受理状況について、「その他」の項目の苦情が32件となっている。この内訳が全て別々の事由ならばこのままでもいいが、数件程度でも固まっているのであれば項目を増やして表示するべきではないか。3点目は麦ストローについて、年々利用が減っている。利用の促進は難しいだろうし、プラスチックストローから紙ストローや麦ストローに変えてもCO₂の削減に繋がっているのかという話も出ている中で今後も啓発を継続するのか。

【事務局】

アレチウリ駆除の時期については、確かに7月の方が駆除しやすいと思うが市内で一斉に環境整備する機会を増やすのは難しいし、6月開催を7月開催に変更することは不可能ではないが、7月になると気温の部分で危険性が高まってしまうため、当面は6月と1

1月開催のままとしたい。ただし、地区の作業時にアレチウリ駆除を行っているところもあるので、その場合は周知の上7月に取り組んでいただければと思う。2点目については、32件の苦情の内容としては、土地の管理者不在や空き家による周辺環境の悪化によるものが多く、不整備により草や木が伸びてしまっている状況を土地管理者等に伝えてほしい、といった内容が非常に多い状況である。これを公害の項目として分類するかどうかについては検討していく。3点目については、麦ストローの販売先に苦慮している実態がある。CO₂削減への寄与については、プラスチックストローを使うよりは環境に配慮しているものとして今後も継続する予定だ。

【委員】

経木の活用について、経木の価格が高いように感じる。イベント等で活用したいといった場合に補助が出たりするのか。

【事務局】

経木を作っているのは市内事業者だが、一般に食べ物の包装で使われる経木は単価が安く採算が合わないためブランド化しているとのこと。今のところ経木に対する補助はない。

【会長】

ブランド化しているということだが販売状況はどうなのか。

【事務局】

順調な売り上げとのこと。

【委員】

せっかく伊那市でも経木活用を進めているのであれば、市の関連事業のイベント等で経木を使いたいという人がいるかもしれないので、補助等の検討をしてもらえれば更に使用量が増えると思うので是非よろしくをお願いしたい。

(3)伊那から減らそうCO₂!!の計画見直しについて

・事務局より説明（資料No. 3）

【会長】

今日の審議会でどこまで決めるのかを整理したい。まず基本的な部分については説明があったように、関連する計画が複数あるが合理的に分かれていない状況で、計画を実行するにしても期間が異なっていたりしている。今回の議題は「伊那から減らそうCO₂!!」を「第2次伊那市環境基本計画兼地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」に

組み込んで、計画間の上下関係をはっきりさせて一緒に令和11年度まで計画を継続させたいという提案になっている。これについて委員の皆様からの意見を伺いたい。

【委員】

令和7年6月20日に開催された令和7年度第1回サステイナブル環境部会では、「伊那から減らそうCO₂!!」の計画が今年度末で終了するため、この計画を廃止にして第2次伊那市環境基本計画区域施策編の重点プロジェクトに統合したい、と提案されており委員からの反対はなかった。しかし、今回の提案では引き続き抑制量を基準として計画を続けると記載されている。これは、サステイナブル環境部会での提案を白紙に戻して再検討した結果、「伊那から減らそうCO₂!!」を継続することとした、という理解でいいか。

【事務局】

サステイナブル環境部会での提案を白紙に戻すということではなく、サステイナブル環境部会の時も今回と同じ説明をしたつもりだ。部会の委員の中で捉え方が違う方もいたようだが、昨年度審議会で見直していただいた環境基本計画の中に取り込んでいきたい事と抑制量という考え方は今までどおりやっていくと説明していると認識している。今回の内容と変わっていない。

【委員】

方針としてはサステイナブル環境部会の時と変わっていないということか

【事務局】

はい。

【会長】

私はサステイナブル環境部会には出席していないのでその時の状況はわからない。私も事前に説明を受け検討してみた。現状、「伊那から減らそうCO₂!!」は環境基本計画の重点プロジェクトに取り込まれているのに計画自体は環境基本計画の外側に位置づけられている。環境基本計画の重点プロジェクトとしては令和11年度まで継続することになっているが、計画は令和7年度になっており奇怪な状況だ。廃止するといった表現をするとますます混沌としてしまうので、本来の形に戻すにはどうすればいいかという趣旨に沿って説明をするべきだった。計画を大きく変えるのではなくより理解しやすい形にしたいという事だ。

【委員】

この計画は「抑制」を前面に出しているが、抑制計画は区域施策編を達成するための手段の一つでしかない。この手段があたかも市全体の目標のように囚われているように感じ

る。市民の方に大きな誤解を与えかねない。抑制量を達成しているから伊那市はCO₂の削減ができていると思われてしまう。実際、抑制計画は設備導入による抑制量の試算でしかなく、排出量を削減しているとは言えないのに、抑制計画が達成されたと言われてしまえば、もう何もしなくていいと思われてしまう。また、CO₂排出量が多い産業部門と運輸部門についてどのように取り組むかも大きな課題になっており、抑制計画だけでは不十分だと思う。区域施策編の中でもそれぞれの部門ごとの数字が入っていても、具体的に何をやってどう減らしていくのかが見えない。反対するということはないが、区域施策編の数字を前面に出し、その施策の中で伊那市がやるべき問題を打ち出してほしい。箕輪町や宮田村も区域施策編を設けており、目標に対する施策の評価をどのように行うか検討してきていると思うし、サステナブル環境部会長にやり方を聞いてみても良いと思う。極力抑制計画だけではなく、産業部門や運輸部門も含めた全体的な施策も作ってもらいたい。

【会長】

ごもっともな意見だと思う。計画というのは階層性があると思う。中長期の計画目標値を設定するにあたってある程度は統計学的や科学的に裏打ちされた数字が設定され、その下にそれを実現するための短期の計画があって、更にその下には実現するための個別的に具体的な技術を含めた実施計画がある。この階層性が重要だと思う。ただ、「伊那から減らそうCO₂!!」は非常に複雑化しており、一番上位が伊那市総合計画であることはわかるが、それ以外の計画を見るとどれが上位計画で下位計画なのかがわからないし、もっと言えばどれが数字的な計画でどれが現実的な実施を示す計画なのかがわからない。結局達成しているという見方もできるし、個別に見ていくと全く達成出来ていないという見方もできてしまう。だからこそ上下の位置関係を見やすくするためにスリム化して市民にわかりやすくすることが基本だと思う。「伊那から減らそうCO₂!!」の計画を区域施策編と一緒にするだけで解決するわけではないが、計画と区域施策編で目標年度の時期がずれていること自体に齟齬があると感じる。委員の言っていることはもっともで、単に廃止してもう一方でやればいいだろうという形はないと思うが、その辺は11月のサステナブル環境部会で議論され、その後に環境審議会で議論することにはなるので、今回は「伊那から減らそうCO₂!!」を区域施策編に位置づけて令和11年度まで行うことに関して了解いただけるかということをお伺いしたい。方針として認めていただけるかという質疑になる。次の会議で案を出すという事だが、区域施策編に既に記載されているからこのまま取り込んで良いよということにはならない。項目を追加するような案も出ているので、そういったものは区域施策編にも明記しなくてはならない。その上で区域施策編全体を見たときに意

義も含めて他の計画とぶつからないかという検討をしなくてはならないと思っている。私も単に廃止して統合するのでこの計画でいいですか、という事を良しとしているわけではない。おそらく、今度のサステナブル環境部会でもこういった話が出てくると思うが、一旦今日の審議会で区域施策編に入れることを認めていただき作業を進めていただく。そして区域施策編は令和11年度まで期間があるが、大きな修正になるので途中でも一部改訂案も出していただき、それをサステナブル環境部会で検討して、その後環境審議会で検討するというところでどうでしょう。そう簡単にはいかないし、上手くいかないこともあるだろうから、とにかく統合することを今すぐ認めようということではなく、方針を認めてやってみようということを了解できればと思っている。簡単に決まることではないが現実問題として諸計画が複雑化しすぎているので、わかりやすい計画にしていくことも必要だと思い、今日の審議会で確認しようとした次第だ。

【委員】

中々理解が難しい。色々な計画を見直して、階層別にしっかり分けて、更にもう一度計画自体を整理して一つの計画のまとめるということか。

【会長】

それが最終的な理想ではある。それぞれの計画が別々のままでも良いが、相互の関係性が明確になっていないといけない。

【委員】

計画を策定するにあたって最初にしっかりしたものを作らなくていいのか、ある程度の形を作って徐々に調整していく形でも問題ないか。

【会長】

最上位計画として第二次伊那市総合計画がある。その次に第二次伊那市環境基本計画兼区域施策編となるが、この2つの計画には期間に1年のズレがある。必ずしも計画期間が同時であることが良いわけではなく、1年のズレがあることで新たに制定された総合計画に基づいた新たな環境基本計画を制定するにあたり、1年を費やせるという見方もできるのでその程度であれば時間的なズレが生じる問題はないと思う。問題は、計画の上下関係の中で、例えばこの計画は区域施策編のこの項目を到達可能にするための実施計画だという相互関連がわかりにくいこと。階層性を持たせ、目標性、達成性、技術性を明確にする重要性は計画分析家がよく言う事で階層がしっかり分かれていれば修正もしやすい。このままにしておくことが一番良くない。また、「伊那から減らそうCO₂!!」は2つの委員会が関わっているので大変だと思う。もしかしたら将来合同委員会を開催するようなことも

あるかもしれないくらいに重い議題だ。今日の協議では、方針について議論し了承いただいたということとしたいと思う。計画の修正案も出ているが、これらを統合した時にどうなるかという部分について次回検討したいので、サステイナブル環境部会で使用する資料と同じ資料をもって環境審議会でも議論できればと思うので準備をお願いしたい。

(4)その他

【委員】

先程空き家の話があったが、1年もしないうちに藪のようになっていたり、線路沿いのあまり人の手が入らないところに以前は見かけなかったような草が生えている気がする。背が高く黄色い花が咲き種もあるのだが、その種が人にくっついて広がってしまっている。拡大を防ぐいい方法はないか。また、市内には各所にトイレがあるものの、山の方にはトイレが少ない。果樹園をやっている知り合いからもトイレが無くて困っているという話をもらった。非常時用のトイレをそういった場所に設置することを検討してもらえないか。

【事務局】

委員の言う植物が特定帰化植物に該当するのであれば、生態系破壊を防ぐために早々に対策していかなくてはならないが、まずはその植物がどういったものなのか特定することからになると思う。トイレについては、災害時等に向けて携帯トイレの準備を進めているが、個人的な事情については個々でご用意いただきたい。

【委員】

先程シカの食害やクマの話があったが、何年か前のラジオでオオカミを放したら良いのではという話があった。そういった方法を検討してもいいのではないか。海外でもそういったことを行っているらしいが。

【会長】

それは別の生態系を壊しかねない。ニホンオオカミは絶滅しているのでオオカミを放つとなれば海外からオオカミを持ってくることになる。これは遺伝子保全の手法になってくるが非常に慎重に扱わなければならないことだ。本来はライチョウを持ってくることも大反対で、あれもある意味自然破壊である。ニホンオオカミが絶滅してしまったのは人間に責任があるのだから、本来ニホンオオカミが担っていた野生動物に対する圧力や対策は人間が責任を持って担っていかなくてはならないと思う。仮に海外からオオカミを持ってきた放つとした場合、今度はオオカミが増えすぎてしまう可能性もあるし、オオカミはシカ

だけを狙うわけではないので新たな絶滅危惧種を作る可能性も絶滅危惧種を絶滅に迫いや
る可能性もあるので、そういった手法については超慎重に考えていただきたい。

【委員】

伊那市前原のメガソーラーについて、新聞報道され、一部稼働だとか賠償請求の回避と
いったことが書かれてあったが真実はどうなのかというのが見えてこない。具体的にどの
ような事があって現状どうなっているのか教えていただきたい。

【事務局】

令和4年に制定された「伊那市太陽光発電設備の設置等に関する条例」では地域住民か
らの同意を要件の一つとしているが、当該案件はその同意が得られていないことから事業
者からの申請を不許可とした結果、業者から伊那市に対して不許可取消の
訴訟を起こされたという経緯になる。現在も裁判は継続しており、地元と業者の間に伊那
市が入って調整しているが、非常に繊細に対応している状況だ。そんな中で新聞報道され
たが、こちらが言えるのは記事のとおりということで、これ以上は控えさせていただき
たい。

【委員】

上伊那クリーンセンターがグリーン電力証書を新事業で取り組むという話を聞いた。約
1,990kwの発電量があり、自家消費した余剰分はICT伊那みらいでんきに売電してい
る中で、自家消費分に対して環境価値をつけて電力証書を売ると聞いている。この取組は
伊那市の中でCO₂削減の計算値等数値的な問題や影響があるのかどうか伺いたい。

【事務局】

上伊那広域連合と機器設備をメンテナンスしている八千代エンジニアリングが今年度契
約し上伊那クリーンセンターで自家消費しているうちの非化石分の環境価値を企業に買っ
てもらうことになった。企業ではSDGsとして環境への貢献が海外的な取引に求められるよ
うになってきており需要がある。上伊那広域連合の事業なので上伊那の区域内の企業に購
入してもらいたいところだが、伊那市としては、せっかく伊那市内で発電された非化石価
値なので伊那市内の企業に購入していただき、企業の価値を高めてもらうように使ってほ
しいので関係各所に協力をお願いしているところ。

【委員】

今話があったように、できれば伊那市内で、少なくとも上伊那で消費してほしいと思
う。県外にもっていかれてしまうと、その価値が外に流れてしまう。可能な限り地域内で
循環できるよう協力していきたい。

4 その他

【事務局】

「2025伊那市環境展」について案内

令和7年10月5日 13:30～16:30 上伊那クリーンセンターにて開催の旨、午後1時から一般財団法人省エネルギーセンターの方を講師に迎え講演会を開催する旨説明。

5 閉会

【副会長】

長時間にわたり慎重な審議に感謝する。以上、第1回伊那市環境審議会を閉会する。